大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

県政担当記者が７月１日に閉会した第２回定例県議会を振り返って書いた「記者席」です。読んでみよう。

2020年7月2日付　大分合同新聞26面

幅広い議論、認識深まる 少なかった提案型発言

記者席 振り返って

第2回定例県議会は新型コロナウイルスを中心に議論した。各議員が幅広い視点から県の対応をただし、現状への認識は深まった。一方で提案型の発言は少なく、物足りなさが残った。

一般質問と議案質疑（計13人）は第2波に備えた医療体制の整備や避難所対策、教育現場のICT（情報通信技術）導入など幅広い感染防止策に及んだ。景気や倒産の状況、売り上げが減った中小企業や農林水産業の支援策、観光振興など経済面の質問も多かった。だが執行部の見解だけを尋ねて終わる場面が散見され、再質問などでさらに課題を深掘りしてほしかった。

新型コロナ対策の補正予算は本年度3回目。一般会計の累計は7千億円を超えた。当初予算を編成したのは感染が本格化する前。既に東京五輪・パラリンピック事前キャンプなどの予算を減額したが、緊急性が高くない事業の見直しは今後も欠かせない。

166億円余りの補正予算案が追加提案され、可決した最終日の本会議。終了後、県議の1人は「十分に精査する時間がなかった」と漏らした。命や暮らしに関わる感染症と闘い、共存していくにはスピード感のある対応が必要だが、少しでも疑問があれば立ち止まって検証する姿勢も忘れないでほしい。（加納慶）

① 第２回定例県議会ではどのような問題について議論されましたか？

新型コロナウイルスを中心に議論。第２波に備えた医療体制の整備や避難所対策、教育現場のＩＣＴ（情報通信技術）導入など幅広い感染防止対策に及んだ。景気や倒産の状況、売り上げが減った中小企業や農林水産業の支援策、観光振興など経済面の質問も多かった。

②議員の質問姿勢で記者が物足りなさを感じたのはどういう点ですか？

幅広い視点から県の対応をただし、現状への認識は深まったが、提案型の発言は少なかった。執行部の見解だけを尋ねて終わる場面が散見され、再質問でさらに課題を深掘りしてほしかった。

③今後、県の新型コロナ対策を審議する上で、記者が県議会に求めているのはどんなことでしょう？

命や暮らしに関わる感染症と闘い、共存していくにはスピード感のある対応が必要だが、少しでも疑問があれば立ち止まって検証する姿勢も忘れないでほしい。